

番 号	5 6	区 分	町指定文化財
種 別	史跡	所 有 者	南木曾町
名 称	大崖(おおがけ)砂防堰堤		
指定年月日	平成10年6月1日		
所 在 地	南木曾町吾妻(下り谷)		

#### 概 要

南木曾町下り谷の大崖地籍は、古くから蛇抜け(じゃぬけ、土石流のこと)による大きな損害を幾度も繰り返していた。江戸時代の寛延2年(1749)には、下り谷にあった白木改番所(しらきあらためばんしょ)が蛇抜けによって崩壊し、一石栃へ移転を余儀なくされたこともあった。

明治に入ると、西洋の技術による近代的な土木工事が各地で進められた。政府のお抱え技師の一人であるオランダ人ヨハネス・デ・レーケ(1842~1913)が大崖の地を視察した際、その酷い状況に驚いて内務省に砂防工事の必要性和緊急性を強く訴えたという。

大崖の砂防堰堤工事がいつ着工されたか明確な記録は残っていないが、明治13年(1880)には、明治天皇が御巡幸の際に工事現場を視察したことが「信濃御巡幸録」に記されている。その後大崖の崩壊は収まり、安定した山肌へと姿を変えたが、長い年月によって堰堤は土砂で深く埋没してしまい、その所在がわからなくなっていた。

昭和57年(1979)、地元大妻籠の藤原長次氏によって発見されたのをきっかけに存在が確認され、南木曾町・建設省により発掘調査が行われて一部が掘り出された。昭和62年(1987)に建設省と南木曾町によって大崖砂防公園として整備され現在一般に公開されている。

大崖砂防堰堤は、長野県下で見つかっている中では最も古く、全国的にも最も古い部類に入る石積み堰堤であり、近代化の過程における歴史的意義は大きく、当時の土木技術・砂防工法を知る上でも貴重な遺構である。

